

イー歯トープ 8020 歯と口のハテナ

県歯科医師会

18

歯周病と糖尿病

佐々木 憲一郎



佐々木憲一郎(ささき・けんいちろう) 1967年生まれ。岩手医大歯学部卒。県歯科医師会学術医療管理委員会委員。釜石歯科医師会理事。ささき歯科医院(釜石市)院長。釜石市在住、同市出身。

糖尿病患者は、その予備軍と合わせると2050万人(2012年厚生労働省調査結果)、実に国民の5人に1人が該当するといわれています。そして、日本人の7割が罹患しているといわれる歯周病。一見関係なさそうなこの二つの病気ですが、近年、密接な関係があることがわかってきました。今回は歯周病と糖尿病の相互の関係について紹介します。

歯周病に感染している人の口の中には無数の歯周病菌が存在しますが、この歯周病菌と戦う免疫細胞(マクロファージ)は血糖値をコントロールするホルモン(インスリン)の働きを邪魔する物質(サイトカイン)を出し、それにより糖尿病を

互いに影響 重症化も



(日本歯科医師会ホームページ「1マパーク8020をもとに作成」)

引き起こしたり悪化させます。その一方で、糖尿病になると体の抵抗力が低下するため歯周病菌は増えていきます。この悪循環により、糖尿病の場合は重症化しやすい

ことわかっていきます。このように、歯周病と糖尿病はお互いに悪影響を及ぼし合っているのです。

糖尿病があってもしっかりと治療をすれば歯周病の起こりやすさは、糖尿病でない人とあまり差がないと考えられます。さらに近年では糖尿病の患者が歯周病の治療をすることで血糖値が改善されるという報告もよく見られるようになってきました。

歯周病と糖尿病の間には密接な関係があるため、糖尿病を患っている方や糖尿病予備軍の方は糖尿病の治療だけでなく、口腔ケアの大切さも意識してみてはいかがでしょうか。(水曜日に掲載します)